

館長あいさつ 「秩父鉄道と自然の博物館」

細野 仁

令和7年4月に館長に就任しました細野仁と申します。JRと秩父鉄道を乗り継ぎ、電車に揺られながら住宅地、田園地帯、そして長瀬の豊かな自然と、風景の変化を楽しみながら自然の博物館に通勤しています。そこで、通勤で利用している秩父鉄道と博物館との関わりなどを紹介したいと思います。

1. 歴史がつながる

秩父鉄道(株)は明治32年に上武鉄道(株)として設立(大正5年改称)され、明治34年に熊谷一寄居間で開業したのがはじまりです。その後、昭和5年に羽生一三峰口間全線が開業しました。この秩父鉄道と自然の博物館は100年以上の歴史がつながっています。大正10年、長瀬に秩父鉄道(株)が開設した「秩父鑛物植物標本陳列所」ができました。戦後間もなく同所は再建され、昭和24年に「秩父自然科学博物館」となりました。その資料などを受け継いで昭和56年に開館したのが埼玉県立自然史博物館です。平成18年に埼玉県立自然の博物館となりました。



秩父鑛物植物標本陳列所



埼玉県立自然の博物館

2. パレオパラドキシアでつながる

秩父鉄道(株)は、昭和63年の「さいたま博覧会」(開催地:熊谷市)を契機としてSLの運行を開始しました。このSLは、吹上町立吹上小学校(現・鴻巣市立吹上小学校)で保管していたもので、名称は「パレオエクスプレス」。その名前はパレオパラドキシアと急行(エクスプレス)が由来です。

このパレオパラドキシアとは、今から約1,500万年前、秩



荒川橋梁を渡るSL

父が海(古秩父湾)だった頃に生息していた海棲哺乳類です。埼玉県からは、世界で2例目となった全身骨格など、パレオパラドキシアの化石が多く発見されています。



パレオパラドキシア復元骨格

ます。自然の博物館では、国の天然記念物に指定された大野原標本(秩父市で発見)や般若標本(小鹿野町で発見)などを展示しています。

3. 最寄り駅は「上長瀬駅」

最寄り駅である上長瀬駅は、熊谷方面から来ると、岩畳や宝登山の最寄りの長瀬駅を通り越した、ひとつ先。熊谷駅からは電車で約1時間です。上長瀬駅のホームに降り立つと駅舎や待合所、旧字体の案内板など、まずは駅のレトロな雰囲気が楽しめます。他にも歴史を感じるものがあるので、ぜひ上長瀬駅で探してみてください。改札を出ると、駅前に現れるのは1,000万年前に生きていた巨大なサメ「カルカロドンメガロドン」の大きな口を開けている姿。案内役となって「博物館はこちら」と出迎えています。ここから歩いて5分ほどで博物館に到着です。



名勝・天然記念物「長瀬」



自然の博物館案内板

博物館をご利用いただき、秩父鉄道が開設した秩父鑛物植物標本陳列所から続く歴史を感じとともに、さまざまな展示に触れ、そして、長瀬の豊かな自然をお楽しみください。

(ほその ひとし・館長)